

平成27年度(後期)

岩手大学公開授業講座

案 内

岩手大学地域連携推進機構

目 次

平成27年度（後期）岩手大学公開授業講座受講生募集要項	1
公開授業科目概要	3
公開授業講座Q & A	19
休講・補講、来学方法等	20
公開授業科目講義室一覧	21
各学部講義室配置図	23
学生センター棟講義室配置図	24
岩手大学キャンパス案内	26
学生用掲示板配置図	27
岩手大学図書館利用申請書	
平成27年度（後期）岩手大学公開授業講座仮受講申請書	
平成27年度（後期）岩手大学公開授業講座受講申込書	

平成27年度（後期）岩手大学 公開授業講座受講生募集要項

1. 公開授業講座とは

公開授業講座とは、学生向けに正規に開講されている授業のうち、市民の方々の受講を受け入れる授業のことです。科目等履修生とは異なり単位の付与は行いませんので、試験や課題レポートの提出を課すものではありません。

2. 公開授業講座の授業科目

公開授業講座の授業科目（以下、「公開授業科目」）は、後掲の「公開授業科目概要」をご覧ください。授業科目の難易度は次の通りです。

- A 入門的な内容で、高等学校卒業程度の学力を必要とするもの
- B より進んだ内容で、当該分野についての一定の基礎知識を必要とするもの
- C 高度な内容で、当該分野についての一定の専門知識を必要とするもの

3. 受講資格

受講資格は特にありませんが、高等学校卒業またはこれと同等の学力が必要とされます。ただし、審査は行いません。

4. 受講生定員

1つの授業科目につき5名が定員です。学生を含む全体の受講者に余裕がある場合は5名を越えて受け入れることがあります。

5. 授業の試聴期間

授業内容・難易度が受講目的にあっているかを確認する期間として、授業の最初の1～2回を試聴期間とします。ただし、授業を受ける前に「仮受講申請書」を提出し、「仮受講証」を受領の上、授業中は仮受講証を机上の見やすいところに必ず置いてください。「仮受講申請書」の提出は、次の受講申込にならってください。

仮受講申込期間：9月28日（月）～10月14日（水） 土日祝日を除く9時～17時

6. 受講申込

「平成27年度（後期）岩手大学公開授業講座受講申込書」に記入して、郵送にてお申し込みください。直接持参されても結構です。なお、受講証に貼付する顔写真（3cm×3cm）1枚を同封してください。

申込受付期間：9月28日（月）～10月14日（水） 土日祝日を除く9時～17時

申 込 先：岩手大学地域連携推進機構

〒020-8551 盛岡市上田4-3-5

問い合わせ先：電 話 019-621-6492

F A X 019-621-6493

電子メール renkei@iwate-u.ac.jp

また、岩手大学図書館の利用を希望される場合は、巻末の「利用申請書」を各自で図書館受付に提出してください。提出に際しては身分を証明できる資料（運転免許証、保険証等）の提示が必要です。なお、前期にすでに「学外者利用証」をお持ちの場合は不要です。

7. 受講生の決定

原則として受付順に決定します。決定後、「受講内定通知書」を郵送いたしますので、1週間以内に受講料を納入してください。受講料納入をもって正式決定となります。

8. 受講料の納入

受講料は4,000円（90分授業、週1回）です。

受講料の納入は、「受講内定通知書」に記載されている金融機関の口座に振り込んでください。

納入後の受講料は、本学や教員の都合で開講できなくなった場合を除き、返還できませんのであらかじめご了承ください。

9. 受講証の交付

受講料を納入された方には、顔写真を貼付した「受講証」を随時郵送いたします。来学される時は必ず携帯され、授業時間中は机上の見やすい所に置いてください。「受講証」が到着するまでは「受講内定通知書」を受講証代わりにご利用ください。

10. 受講生の義務

公開授業講座の受講生は、受講にあたり、本学が行う教育研究や授業に支障が及ぶことがないように努めてください。また、必要に応じて本学関係者の指示に従ってください。この義務に反して、受講生としてふさわしくない言動や遅刻等があった場合は、受講を停止することがあります。その場合、既納の受講料は返還しません。

11. 原状回復等

公開授業講座の受講生が、故意又は過失により本学の施設・設備等を破損・滅失・汚損してしまったときは、速やかに届け出ていただくとともに、当該受講生の責任でこれを原状に回復し、又はその損害を賠償していただきます。

12. 受講修了証の発行

公開授業講座は単位を認定しませんが、試験を除く授業回数の3分の2以上出席された場合は、「公開授業講座受講修了証」を発行します。

公開授業科目概要

(授業科目一覧)

No.	授 業 科 目 名	曜日	授業時間帯	難易度	担当教員	受講料
1	漢文学講義	水	14：45～16：15	B	藪 敏 裕	4,000円
2	日本の文学	水	8：40～10：10	A	家 井 美千子	4,000円
3	日本文学講義Ⅱ	月	13：00～14：30	B	家 井 美千子	4,000円
4	言葉の世界	木	10：30～12：00	A	小 島 聡 子	4,000円
5	言語習得論Ⅱ	金	10：30～12：00	B	松 林 城 弘	4,000円
6	日本語と社会	木	10：30～12：00	B	大 野 眞 男	4,000円
7	日本の思想と文化	水	8：40～10：10	A	中 村 安 宏	4,000円
8	欧米の思想と文化	月	16：30～18：00	A	池 田 成 一	4,000円
9	社会文化思想論Ⅳ	金	10：30～12：00	B	池 田 成 一	4,000円
10	環境文化論Ⅰ	金	14：45～16：15	A	開 龍 美	4,000円
11	環境文化論Ⅱ	水	14：45～16：15	B	開 龍 美	4,000円
12	英語構造論Ⅳ	木	13：00～14：30	B	橋 本 学	4,000円
13	日本語教材論	水	13：00～14：30	B	松 岡 洋 子	4,000円
14	日本の歴史と文化	木	13：00～14：30	A	菅 野 文 夫	4,000円
15	古文書学	月	14：45～16：15	B	菅 野 文 夫	4,000円
16	日本史概論Ⅱ	金	13：00～14：30	B	菅 野 文 夫	4,000円
17	民法(家族法)Ⅱ	水	13：00～14：30	B	宮 本 ともみ	4,000円
18	憲法	月	8：40～10：10	A	藤 本 幸 二	4,000円
19	地理学概論	月	10：30～12：00	B	遠 藤 匡 俊	4,000円
20	教育心理学	木	16：30～18：00	B	岩 木 信 喜	4,000円
21	知的障害教育指導法	木	8：40～10：10	B	名古屋 恒 彦	4,000円
22	知的障害教育授業論	木	16：30～18：00	B	名古屋 恒 彦	4,000円
23	特別支援教育概説	木	14：45～16：15	B	佐々木 全	4,000円
24	社会的人間論	月	8：40～10：10	A	麦 倉 哲	4,000円
25	地域社会論	月	14：45～16：15	B	麦 倉 哲	4,000円
26	理論経済学Ⅱ	水	14：45～16：15	B	杭 田 俊 之	4,000円
27	被服学Ⅰ	木	14：45～16：15	A	天 木 桂 子	4,000円
28	被服学Ⅳ	水	10：30～12：00	B	天 木 桂 子	4,000円
29	有機化学	木	8：40～10：10	B	木 村 賢 一	4,000円
30	栄養化学	金	10：30～12：00	B	長 澤 孝 志	4,000円
31	美味学	木	8：40～10：10	B	三 浦 靖 長 澤 孝 志	4,000円
32	食品生産システム学	木	13：00～14：30	B	三 浦 靖	4,000円

No.	授 業 科 目 名	曜日	授業時間帯	難易度	担当教員	受講料
33	食品保蔵学	金	10:30~12:00	B	塚本知玄	4,000円
34	植物育種学 I	金	10:30~12:00	B	高畑義人	4,000円
35	植物ストレス応答学	木	10:30~12:00	B	伊藤菊一	4,000円
36	森林化学	水	10:30~12:00	B	小藤田久義	4,000円
37	基礎放射線学	火	10:30~12:00	B	宇塚雄次	4,000円
38	電気数学	水	14:45~16:15	B	本間尚樹	4,000円
39	基礎有機化学	火	10:30~12:00	B	嶋田和明	4,000円
40	電力工学基礎論	月	13:00~14:30	B	向川政治	4,000円

科目 番号	1	漢文学講義	科目区分			難易度				
			専門教育科目			B				
担当 教員	藪 敏裕 (教育学部国語教育科)		授業 曜日	水	授業 時間	14:45～ 16:15	対象学年	2～4年	受講料	4,000円
<p>◆授業の目標◆主として「漢文学概論」を受講した学生を対象にして、漢文学を学んでいくにあたって必要な知識、具体的には漢文読解の技術である訓読に関する基礎的な知識及び中国の歴史・地理・文化に関する知識の獲得をめざす。</p> <p>◆授業の概要◆事前に配布したプリントを各自予習してくることを前提にして、そのテキストの背景等を説明した上で、各自が訓読・解釈をし、その妥当性を考える。</p> <p>◆授業の形式◆主として講義中心の授業である。事前に次回の授業の範囲を指定するので、その部分については参考書等で解釈訓読を確認しレジュメを作成すること。</p> <p>◆教室外の学習◆プリントを事前に配布するので、各自必ず「参考文献」に掲載した参考書及び授業中に紹介する書物等を参考にして、各自で必ず訓読・解釈してくる。</p> <p>◆参考文献◆西田太一郎、漢文法要説、朋友出版、2002年、4892810533 太田辰夫、古典中国語文法、汲古書院、1984年</p> <p>◆初回開講日◆10月7日</p>										

科目 番号	2	日本の文学	科目区分			難易度				
			全学共通教育科目			A				
担当 教員	家井 美千子 (人文社会科学部国際文化課程)		授業 曜日	水	授業 時間	8:40～ 10:10	対象学年	1～2年	受講料	4,000円
<p>◆授業の目標◆現代に比較的近い時期の「古典」に慣れること。 「文学」が、「紙に印刷されたもの」以外にもあることを理解できること。 「地域」「地元」に対する主観性・客観性の違いを意識すること。</p> <p>◆授業の概要◆日本の古い文学の中で、庶民感情を反映している「お伽草子」と呼ばれる中世に起源を持つ物語群のなかから、東北地方との関わりが深い『俵藤太物語』を選び、そのバリエーションを紹介しながら、それに関わった人々の表現と考え方を理解する。 また、内容が当時の「日本」とその外の世界を行き来するものでもあるので、異国で「日本人」が活躍することに託した当時の人々の考え方や夢を読み取り、現在とそれがいかに異なり、またどのように共通するかを理解する。</p> <p>◆授業の形式◆基本的には講義形式。ただし、グループ分けして討論する機会を設ける。視聴覚資料を使用。</p> <p>◆教室外の学習◆授業内で紹介する文献・資料等を採り、報告する。またテキスト本文を自分自身で何度も熟読のこと。</p> <p>◆留意点◆扱う作品が近代以前のものであるので、おおよその日本史の知識があることが望ましい。</p> <p>◆初回開講日◆10月7日</p>										

科目 番号	3	日本文学講義Ⅱ	科目区分			難易度				
			専門教育科目			B				
担当 教員	家井 美千子 (人文社会科学部国際文化課程)		授業 曜日	月	授業 時間	13:00～ 14:30	対象学年	2～4年	受講料	4,000円
<p>◆授業の目標◆現在の「文学観」をとらえ直す視野を、過去の価値の大転換の時期の文化変容を展望することにより獲得する。</p> <p>◆授業の概要◆日本における文学現象・文学活動・芸能活動の中世における展開を、「日本の学問史」との関わりを中心に講義し、学問と文化との関係を探るとともに、現代に大きな影響を与えた中世から近世にかけての文学を概観する。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式だが、時間内に受講者の意見を聞いたり、複数回のレポート提出を課す。毎回、必ずレスポンスカードか書き込みシートの記入を義務づける。</p> <p>◆教室外の学習◆基本的事項に関して図書館の書籍を調査したり、参考文献の精読を必要とする。</p> <p>◆留意点◆授業開始後に、必携資料について指示する。 参考文献は、授業の展開に応じて印刷物を配布または資料調査するよう示す。</p> <p>◆初回開講日◆10月5日</p>										

科目 番号	4	言葉の世界	科目区分			難易度
			全学共通教育科目			A
担当 教員	小島 聡子 (人文社会科学部国際文化課程)	授業 曜日	木	授業 時間	10:30~	対象学年
					12:00	2年
<p>◆授業の目標◆日本語を例に、言葉に関するさまざまなことを取り上げ、日本語あるいは言語一般について考察する。日常当たり前に使っている言葉について、あらためて考えることを通して言葉の仕組みとそれを使う人間について理解を深める。</p> <p>◆授業の概要◆本期の講義では、文字と言語の関係について考える。文字とはどのようなものなのか、文字の有無と言語のあり方との関係、世界の文字のいろいろ、特に日本語の文字について漢字と仮名の問題などを取り上げる。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式。</p> <p>◆教室外の学習◆講義でわからなかった語は自分で調べること、講義で紹介された本を読んでおくこと</p> <p>◆留意点◆受講者が集中した場合は履修制限を行うので、初回の講義には必ず出席すること。</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>						

科目 番号	5	言語習得論Ⅱ	科目区分			難易度
			専門教育科目			B
担当 教員	松林 城弘 (人文社会科学部国際文化課程)	授業 曜日	金	授業 時間	10:30~	対象学年
					12:00	2~4年
<p>◆授業の目標◆第2言語(母語以外の言語)の習得に関わる諸要因、例えば、心理的要因、社会・文化的要因、個別言語の特性に関わる要因、学習者のパーソナリティーや言語適性に関わる要因、指導法に起因する要因などについて、現在までの研究動向を踏まえながら概説し、第2言語習得研究の基礎を培う。</p> <p>◆授業の概要◆言語習得研究の分野は広範囲にわたっているため、代表的な分野に的を絞って概説します。前期には、「ことばと脳」「ことばの習得過程」といった言語習得研究の根本的な問題を中心に講義します。後期には、現在までの主だった第2言語習得研究を取り上げ概説する予定です。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式です。講義に即した資料や穴埋め記述式のプリントを毎時間用意する予定です。</p> <p>◆教室外の学習◆講義で扱った話題について、さらに詳しい知識と認識を得るため指定した本を読んでもらうことがある。</p> <p>◆留意点◆言葉の習得や学習に興味を持っている方の受講も歓迎します。</p> <p>◆初回開講日◆10月2日</p>						

科目 番号	6	日本語と社会	科目区分			難易度
			専門教育科目			B
担当 教員	大野 眞男 (教育学部国語教育科)	授業 曜日	木	授業 時間	10:30~	対象学年
					12:00	2~4年
<p>◆授業の目標◆近代化の過程としての日本の国語構築のプロセスの概略をたどり、その後の歴史の展開の中でどのように国語が変容してきたか、グローバル化等にさらされる現代的状況の中で国語がどのように在るべきかについて、具体的事例を通して考える。</p> <p>◆授業の形式◆講義を中心に、演習的作業を織り交ぜる。</p> <p>◆教室外の学習◆授業内で適宜指示する。</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>						

科目 番号	7	日本の思想と文化	科目区分			難易度
			全学共通教育科目			A
担当 教員	中村 安宏 (人文社会科学部国際文化課程)	授業 曜日	水	授業 時間	8:40~	対象学年
					10:10	1~2年
<p>◆授業の目標◆思想・文化の豊かな世界。現代に生きる我々がさまざまな問題関心をおつけることによって、それはさまざまな顔を見せてくれる。それを実証的・歴史的に明らかにしていくこと、そこに思想史・文化史という学問の「もの見方・考え方」の面白さがある。そのことはまた、現代に埋没している我々自身を問い直す力を養うことでもある。この授業では、思想史や文化史という学問の方法や意義について学び、考えるとともに、日本史上における思想や文化についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>◆授業の概要◆テーマは「日本人と超越者」。日本人は神・仏・天などの超越者をどのように捉えてきたのか、それをめぐってどのような思想的・文化的営みがなされてきたのか、時代を追って見ていく。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式。</p> <p>◆教室外の学習◆授業で紹介した文献を読んでみる。</p> <p>◆留意点◆開講時に指示</p> <p>◆初回開講日◆10月7日</p>						

科目 番号	8	欧米の思想と文化			科目区分		難易度
					全学共通教育科目		A
担当 教員	池田 成一 (人文社会科学部国際文化課程)	授業 曜日	月	授業 時間	16:30~ 18:00	対象学年 1年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆現代世界を依然支配している欧米の近代思想とその問題点について学ぶことで、いろいろの専門分野や個別の文化が、それらの根底にある思想という点で深くつながっていることを理解し、自分の専門分野をその中で位置づけられるようにする。</p> <p>◆授業概要◆現代世界を支配している欧米の近代思想の中心は、18世紀に形成された「文明」の思想であるといつてよい。この思想は、科学・技術・経済・社会・芸術・道徳等をすべて含んでおり、それらを相互に関連させた総合的な思想であることによって、近代における欧米の優位を保証し、欧米が世界を植民地化していく原動力にもなった。しかし、既に同じ18世紀には、この文明思想に対抗するルソーのような思想も生まれている。この講義では、「文明」の思想の問題点について、その批判者であるルソーの視点から見えていくと同時に、「文明」の思想がどのようにして成立したかを見ていく。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式。</p> <p>◆教室外の学習◆授業で渡されるプリントを事前によく読んでおくこと。また、テキストに指定するルソーの『人間不平等起原論』は必ず読むこと。</p> <p>◆教科書◆ルソー、人間不平等起原論（岩波文庫）、岩波書店、1972年</p> <p>◆留意点◆概要で述べたように、講義の内容は、科学・技術・経済・社会・芸術・道徳等、広い範囲にわたるので、広い分野に関心をもっていることが強く望まれる。なお教科書は、最後の方でしか使わないが、必ず買って、自分で読むこと。</p> <p>◆初回開講日◆10月5日</p>							

科目 番号	9	社会文化思想論Ⅳ			科目区分		難易度
					専門教育科目		B
担当 教員	池田 成一 (人文社会科学部国際文化課程)	授業 曜日	金	授業 時間	10:30~ 12:00	対象学年 1~4年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆19世紀後半のドイツの思想、特にフォイエルバッハ、マルクス、ニーチェの思想を通じて、現代の思想的問題を考える。フォイエルバッハ、マルクス、ニーチェの思想を理解し、現代の思想的問題について自分で考えられるようにする。</p> <p>◆授業の概要◆19世紀半ばから後半のヨーロッパ、とくにドイツの思想は、ヘーゲルにおいて一応の完成をみた近代の反省のうえにたつて、現代思想の基礎となっているという点で重要である。そこで、この講義では、特に、フォイエルバッハ、マルクス、ニーチェの思想を解説し、それがどのように現代思想につながっているかを考える。また、これらの思想家は、みなキリスト教批判を大きなモチーフにしているが、その批判のしかたは異なっている。これが、現代思想に重要な意味をもっていることに注意したい。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式。</p> <p>◆教室外の学習◆フォイエルバッハ、マルクス、ニーチェの本を自分で読むこと。</p> <p>◆教科書◆マルクス、経済学・哲学草稿（岩波文庫）、岩波書店 ニーチェ、悲劇の誕生（岩波文庫）、岩波書店 ニーチェ、道徳の系譜（岩波文庫）、岩波書店 フォイエルバハ、将来の哲学の根本命題（岩波文庫）、岩波書店</p> <p>◆初回開講日◆10月2日</p>							

科目 番号	10	環境文化論Ⅰ			科目区分		難易度
					専門教育科目		B
担当 教員	開 龍美 (人文社会科学部環境科学課程)	授業 曜日	金	授業 時間	14:45~ 16:15	対象学年 1~2年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆環境文化論の目的は、人間が自然との関わりから育んだ環境文化の基本的な成り立ちを考察するとともに、その根底にある自然観・人間観（の過去・現在・未来）を究明することにある。そこでこの授業では、人間と自然とが分断され、〈いのちのつながり〉が失われている現代的情况をふまえ、西洋近代に頂点に達する「人間と自然を切り離す見方」のルーツから出発し、現代環境主義における「人間と自然を結び直す見方」への転換を跡づけ、その意義を理解することを目的とする。</p> <p>◆授業の概要◆最初に、「人間存在にとって自然・環境とは何か」という問題を哲学的人間学の観点から考察し、その過程で、環境・空間・場所・自然・文化といった錯綜した基本概念を整理する。次に、文明の展開と自然環境との関係を、農業・都市・宗教・科学技術を観点として歴史的に辿る。そして最後に、地球環境問題の切迫による文明の大転換期である現代に出現した環境主義を概観し、環境に対する現代の価値観と今後の課題を探る。</p> <p>◆授業の形式◆講義+質疑応答。プロジェクターによるスライド、映像資料を常時活用する。</p> <p>◆教室外の学習◆中間レポートおよび学期末筆記試験作成のためには、講義要旨、その他配布資料を熟読するだけでなく、参考文献・資料に独自に理解を深め、準備を進める必要がある。</p> <p>◆参考文献◆梅原猛・伊東俊太郎他編『講座 文明と環境』第1~4、8、9、11、13、14巻、朝倉書店、1995年。</p> <p>◆初回開講日◆10月2日</p>							

科目 番号	11	環境文化論Ⅱ	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	開 龍美 (人文社会科学部環境科学課程)		授業 曜日	水	授業 時間	14:45～ 16:15	対象学年 2～3年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆この授業の目的は、環境問題について環境文化の観点から判断を下すための適切なフレームワークを実例に則して習得するにある。環境問題は、問題化している自然環境に対する科学技術的アプローチだけで対処できるものではなく、根には人間と自然との関わりをめぐる価値観・自然観・人間観を含め環境文化の問題があり、それらの再検討なくしては根本的解決はない。この授業では、1) 白神山地入山規制問題と捕鯨問題について、それぞれの問題の錯綜した諸要素を取りだし、その問題の成り立ちを説明できること。2) ついで、適切な意思決定(合意形成)に向け議論を詰めてゆくためのフレームワーク(評価準拠枠)を構想できることを目標とする。</p> <p>◆授業の概要◆「環境文化論Ⅰ」では、自然との交渉において生まれる環境文化、自然に対する価値観について、文明の展開の歴史に即して、原理的・概括的に考察を行った。これを踏まえて、「環境文化論Ⅱ」では環境文化の事例研究を行う。つまり、環境文化の具体的事例、個別的問題の考察から出発し、それぞれの問題の構図、問題の原因を明らかにし、その原因に横たわる価値観・人間観・自然観を検討する。テーマとしては、「人間と自然物との関わり」として〈山の問題〉を、そして「人間と動物との関わり」から〈捕鯨問題〉を取り上げる。</p> <p>◆授業の形式◆講義+質疑応答。プロジェクターによるスライド、映像資料を常時活用する。</p> <p>◆教室外の学習◆授業で取り上げる2つのテーマについてレポートを書き上げるためには、講義(要旨)で紹介する参考文献・資料に独自に当たり理解を深め、準備を進める必要がある。</p> <p>◆参考文献◆鬼頭秀一、自然保護思想を問い直す、筑摩書房、1996年 菊池俊朗、『山の社会学』、文藝春秋、2001年 田口洋美、『越後三面山人記-マタギの自然観に習う-』、農文協、1992年 キース・トマス、『人間と自然界-近代イギリスにおける自然観の変遷-』、法大出版局、1989年 森田勝昭、『鯨と捕鯨の文化史』、名古屋大学出版会、1994年</p> <p>◆留意点◆授業は環境文化の個別問題を取り上げるにせよ、授業時間の制約上詳細を掘り下げることが難しいので、授業で紹介する文献は課題図書(授業を理解するためには必須の文献)に積極的に取り組んで欲しい。</p> <p>◆初回開講日◆10月7日</p>								

科目 番号	12	英語構造論Ⅳ	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	橋本 学 (人文社会科学部国際文化課程)		授業 曜日	木	授業 時間	13:00～ 14:30	対象学年 2～4年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆本講義では、まず、人がどのように言語を発達させるのか、その概略を把握します。そして、言語発達が何らかの要因によって阻害された場合にどのような発達障害が起きるのか、加齢・疾病や事故などによって失語症などの言語障害がどのような形で発現するのかを分析します。</p> <p>◆授業の概要◆まず、言語発達や言語障害のデータを理論言語学、言語発達学や言語聴覚障害学の視点から分析する方法論について、オリエンテーションを行います。次に、指定する参考文献のクリティカル・リーディング及びディスカッションを行います。</p> <p>◆授業の形式◆講義+演習形式</p> <p>◆教室外の学習◆ 普段の授業において質疑応答、ディスカッションや研究発表を行いますから、予習・復習が不可欠です。予習の段階で、次回の学習範囲の内容を批判的に精読し、自分にとって理解できなかった箇所や疑問点などを明らかにして授業に臨んでください。参考文献も適宜指示しますので、あらかじめ(或いは復習の段階で)ブラウズ(ざっと目を通して概要を捉える)しておく必要があります。</p> <p>◆教科書◆岩立志津夫・小椋たみ子(編)、『よくわかる言語発達』、ミネルヴァ書房、2005年</p> <p>◆留意点◆初回の授業では、この授業全体のオリエンテーションを行いますので、必ず出席してください。</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>								

科目 番号	13	日本語教材論	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	松岡 洋子 (国際交流センター)		授業 曜日	水	授業 時間	13:00～ 14:30	対象学年 1～2年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆日本語教育における教材の意味、役割について概説し、学習者に合わせた利活用の方法を知る。</p> <p>◆授業の概要◆教材の役割について概観し、教科書分析、教材作成作業を通じて実践的に学ぶ</p> <p>◆授業の形式◆講義と演習。学期中、留学生に対する実習授業を予定している。</p> <p>◆教室外の学習◆必要に応じて課題を与える。</p> <p>◆初回開講日◆10月7日</p>								

科目 番号	14	日本の歴史と文化	科目区分			難易度
			全学共通教育科目			A
担当 教員	菅野 文夫 (教育学部社会科教育科)	授業 曜日	木	授業 時間	13:00～	対象学年
					14:30	1～2年
<p>◆授業の目標◆日本中世史に関する近年の研究状況について基礎的な知識を得ることで、日本の歴史と文化全体に対する理解を深めることを目的とする。具体的には、われわれにとって身近な地域である岩手県域を中心とした奥羽北部地域に焦点をあてて検討し、地域史を通じて日本の歴史と文化への理解を深める。</p> <p>◆授業の概要◆ 具体的な内容は、おおむね下記の通り。 (1) 鎌倉幕府体制と奥羽 (2) 南北朝内乱と奥羽 (3) 室町幕府体制と奥羽 (4) 戦国争乱・統一政権と奥羽 (5) 奥州藤原氏の権力の性格をめぐって</p> <p>◆授業の形式◆通常の講義形式。 ◆教室外の学習◆基礎的な歴史用語、人名、史実については、講義中の指示にしたがって学習されたい。 ◆初回開講日◆10月1日</p>						

科目 番号	15	古文書学	科目区分			難易度
			専門教育科目			B
担当 教員	菅野 文夫 (教育学部社会科教育科)	授業 曜日	月	授業 時間	14:45～	対象学年
					16:15	2～4年
<p>◆授業の目的◆日本近世史を研究するうえで必要な、史料の読解力を涵養することを目的としている。</p> <p>◆授業の概要◆盛岡藩政史の基本史料である盛岡藩「雑書」を読解する。</p> <p>◆授業の形式◆演習形式。①史料の音読、②史料の解釈、③史料から引き出せる事実の確認</p> <p>◆教室外学習◆受講生は全員、史料に一通り目を通して頂くこと。</p> <p>◆初回開講日◆10月5日</p>						

科目 番号	16	日本史概論Ⅱ	科目区分			難易度
			専門教育科目			B
担当 教員	菅野 文夫 (教育学部社会科教育科)	授業 曜日	金	授業 時間	13:00～	対象学年
					14:30	1～4年
<p>◆授業の目的◆日本中世史上の基本的な諸問題をとりあげて検討する。</p> <p>◆授業の概要◆1章「中世貴族と貴族政権」、2章「武士と武家政権」、3章「中世百姓と年貢・公事」 4章「僧侶と寺院社会」の予定だが、年度によって進捗が異なる場合がある。</p> <p>◆授業の形式◆通常の講義形式。</p> <p>◆教室外学習◆歴史用語、人名等について講義で解説しますが、基礎的な知識は図書館で歴史事典を引くなどしてそれぞれで学習してください（とくに、高等学校で日本史を履修しなかった受講生）。また、講義中に参考文献を紹介することがあるので、講義に関わる部分を読んでおいてください。</p> <p>◆初回開講日◆10月2日</p>						

科目 番号	17	民法（家族法）Ⅱ	科目区分			難易度
			専門教育科目			B
担当 教員	宮本 ともみ (人文社会科学部法学・経済課程)	授業 曜日	水	授業 時間	13:00～	対象学年
					14:30	2～4年
<p>◆授業の目標◆私人間のあらゆる生活関係を規律する民法のなかで、家族関係について定める部分（いわゆる家族法）を理解してもらうことが目的です。その際、各条文の表面的な意味を知るだけでなく、条文が定められた趣旨や、社会状況の移り変わりに応じて条文解釈が変化することを意識しながら理解を深めてもらいます。</p> <p>◆授業の概要◆本講義では、親子にかかわる法的関係を規律している親子法、および、人の死亡による財産関係の承継について規律する相続法を取り上げます。</p> <p>◆授業形式◆講義形式で行います。各自のノート整理に役立てるために、補助的に板書を多く利用するつもりです。</p> <p>◆教室外の学習◆毎回の授業内容について、各自がノートを取り、自分で論点を整理してまとめておくことが重要です。</p> <p>◆教科書◆二宮周平、家族法 [第4版]、新世社、2013年、9784883841974</p> <p>◆留意点◆毎回の授業においては、六法を必ず持参すること。</p> <p>◆初回開講日◆10月7日</p>						

科目 番号	18	憲法	科目区分				難易度
			全学共通教育科目				A
担当 教員	藤本 幸二 (人文社会科学部法学経済課程)		授業 曜日	月	授業 時間	8:40～ 10:10	対象学年 1年 受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆本講義の目的は、憲法学の基本知識を学び、それを通じて現代の社会的問題を考察するための基礎を身につけることに置かれる。前者については、憲法総論・基本的人権・統治機構の3領域に分けて解説を加える基本的な手法ではなく、近代以降の諸外国の憲法を比較対象とし、現行の日本国憲法の特徴を描き出す、「比較憲法」と呼ばれる手法を用いる。</p> <p>◆授業の概要◆講義の前半は、イギリス・ドイツ・アメリカの憲法史および大日本帝国憲法についての概観を紹介し、次いでそれらと比較するかたちで各国の現行憲法と日本国憲法の特徴について説明していく。その後、現在問題とされている社会的な事象を取り上げ、そこにおいて憲法がどのように理解され、適用され、どのような結果をもたらすべきなのか、を考えていく。</p> <p>◆授業の形式◆講義においてはパワーポイントを使用し、それに毎回配布する資料を併用しながら話を進めていく。受講生は、各授業終了後、今回講義内容に関する質問・感想(ペーパーにての提出も可)をiカードにて提出してもらう。</p> <p>◆教室外の学習◆上述「授業の形式」で述べたとおり、受講生は、各回の授業終了後、今回講義内容に関する質問・感想(ペーパーにての提出も可)をiカードにて提出するものとする。</p> <p>◆教科書◆南野森・内山奈月、憲法主義 条文には書かれていない本質、PHP研究所、2014年、9784569819136</p> <p>◆留意点◆講義は授業計画にしたがって行う予定ではあるが、関連する時事的な問題が発生したなどの理由で変更する場合もある。</p> <p>◆初回開講日◆10月5日</p>							

科目 番号	19	地理学概論	科目区分				難易度
			専門教育科目				B
担当 教員	遠藤 匡俊 (教育学部社会科教育科)		授業 曜日	月	授業 時間	10:30～ 12:00	対象学年 1～4年 受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆世界の漁撈社会と日本の漁村社会を比較し、漁業権の消滅という事態を想定して、そこで生じる諸問題について人文地理学的に考察することが目的である。人文地理学の正確な知識だけではなく面白さを、教員あるいは指導者という立場で人々に伝えられるようになっていただきたいと思ひます。</p> <p>◆授業の概要◆世界の漁撈文化を大きく二つに分け、イヌイト(エスキモー)とバジャウラウトの生活を紹介する。次に定住性の高い日本の漁村について、漁業権、漁業協同組合との関わりから述べる。そして原子力発電所の設置計画に伴い漁業権が消滅する過程で、漁村社会がどのような影響を受けるか、という問題を提起する。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式。</p> <p>◆教室外の学習◆講義内容について図書館などで再確認することが必要となる。レポートの提出などを求めることがある。</p> <p>◆留意点◆高校で地理学を履修しているかどうかは関係ありません。地理学の面白さを知っていただければと思ひます。</p> <p>◆初回開講日◆10月5日</p>							

科目 番号	20	教育心理学	科目区分				難易度
			専門教育科目				B
担当 教員	岩木 信喜 (教育学部学校教育科)		授業 曜日	木	授業 時間	16:30～ 18:00	対象学年 2～4年 受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆教育心理学は、教育課程で出現する課題を心理学的側面から研究し、教育活動をより効果的にしようとする心理学の一部門である。そこで、乳幼児期から青年期に至る発達を多面的に理解し、教育を行う上で重要な心理学的知見を学ぶことを目標とする。</p> <p>◆授業の概要◆本講義では、次の3領域について解説する。 1) 発達：学校教育における被教育者、特に児童期までの人間の一般的な発達の様相及び心身障害児の心理 2) 教授—学習過程：学習の成立、思考のメカニズム、学び方の学習、動機づけ、学習指導法 3) 教育評価：測定と評価、評価のあり方</p> <p>◆授業の形式◆講義形式。</p> <p>◆教室外の学習◆課題を毎回課すことはないが、復習をすることが望ましい。</p> <p>◆教科書◆市川伸一、現代心理学入門3 学習と教育の心理学、岩波書店</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>							

科目 番号	21	知的障害教育指導法	科目区分			難易度
			専門教育科目			B
担当 教員	名古屋 恒彦 (教育学部特別支援教育科)	授業 曜日	木	授業 時間	8:40~	対象学年
					10:10	2~4年
<p>◆授業の目標◆知的障害教育における独自の指導内容・指導方法を、その背景の理論に学びながら、实际的に理解する。</p> <p>◆授業の概要◆知的障害教育には、教科の内容の独自性、指導法としての領域・教科を合わせた指導など、指導内容・指導法に関する独自性が存在する。その意義及び実際に指導を展開する上での留意点を、独自性の由来となる歴史的背景を踏まえながら概説する。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式。</p> <p>◆教室外の学習◆できる限り知的障害教育指導法に関する文献講読を行う。</p> <p>◆教科書◆山形県立米沢養護学校、テーマのある学校生活づくり 子ども主体の特別支援教育、コレール社、2008年、9784876377121</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>						

科目 番号	22	知的障害教育授業論	科目区分			難易度
			専門教育科目			B
担当 教員	名古屋 恒彦 (教育学部特別支援教育科)	授業 曜日	木	授業 時間	16:30~	対象学年
					18:00	2~4年
<p>◆授業の目標◆知的障害教育の授業で行われる場の設定、道具等の工夫の支援的対応の在り方を、活動の進め方や教師の声かけ・手助け等の支援と関連づけながら理解する。</p> <p>◆授業の概要◆知的障害教育の授業において重視される場の設定、道具等の工夫といった支援的対応の在り方を、授業における活動の進め方や教師の声かけ・手助け等の支援と関連づけながら、実際の授業記録等に基づいて概説する。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式。</p> <p>◆教室外の学習◆できる限り知的障害教育に関する授業論、指導案を講読する。</p> <p>◆教科書◆生活中心教育研究会、生活中心教育の展開、大揚社、1998年、4795243700</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>						

科目 番号	23	特別支援教育概説	科目区分			難易度
			専門教育科目			B
担当 教員	佐々木 全 (教育学部特別支援教育科)	授業 曜日	木	授業 時間	14:45~	対象学年
					16:15	1~2年
<p>◆授業の目標◆特別支援教育（理念、制度、指導原理）および関連した事柄（就学前、卒業後）の概要を理解し、重要な概念を理解する。</p> <p>◆授業の概要◆</p> <p>第1回 障害の理解</p> <p>第2回 特別支援教育の歴史と背景</p> <p>第3回 特別支援教育の制度</p> <p>第4回 特別支援学校における教育課程と実践①</p> <p>第5回 特別支援学校における教育課程と実践②</p> <p>第6回 特別支援学級における教育課程と実践</p> <p>第7回 通常学級における教育課程と特別支援教育の実践</p> <p>第8回 岩手県における特別支援教育の展望</p> <p>第9回 特別支援教育における連携①</p> <p>第10回 特別支援教育における連携②</p> <p>第11回 特別支援教育における支援方法</p> <p>第12回 アセスメントと個別の指導計画</p> <p>第13回 早期発見と早期療育</p> <p>第14回 進路指導と卒業後の生活</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>◆授業の形式◆講義形式。</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>						

科目 番号	24	社会的人間論	科目区分			難易度
			全学共通教育科目			A
担当 教員	麦倉 哲 (教育学部社会教育科)	授業 曜日	月	授業 時間	8:40~	対象学年
					10:10	1~2年
<p>◆授業の目標◆個々人の生活や生存と社会との関係を考える。社会の環境の中で人は生活や生存の機会を得、またその影響で、生活や生存の影響を受ける。生きがいを感じるのも社会との関係であり、また死にたいと思うのも社会との関係で起こる。社会との関係で、人間の生と死を考える。</p> <p>◆授業の概要◆個人と社会との関係の基礎をまずおさえる。次に、特に本年は、自殺の社会学について、講じる。自殺の増大が、社会との影響作用で起こることを知る。社会がとる対策の成果により、自殺の増減はどのような影響を受けるかを考える。自殺を、可能な限り減らしていくには、どのような対策が有効かを、受講生とともに考える。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式。発表や討議の時間も設ける。</p> <p>◆教室外学習◆必要に応じて実施する。</p> <p>◆初回講義◆10月5日</p>						

科目 番号	25	地域社会論	科目区分			難易度
			専門教育科目			B
担当 教員	麦倉 哲 (教育学部社会教育科)	授業 曜日	月	授業 時間	14:45~	対象学年
					16:15	1~4年
<p>◆授業の目標◆障害者の地域生活について、社会政策はどのような対策を講じているのか、ボランティアやNPOはどのような実践をし、提案をしているのか。みなさんは、どのような対策を提案できるのか。講義を通じてみなさんとともに考えたい。みなさんには、問題のリアリティをつかんでいただきたい。また、問題を掘り下げるためのリサーチ研究の意義を知ってほしい。それと同時に、問題解決方法の検討に知恵を絞ってほしい。</p> <p>◆授業の概要◆これまでの都市政策は、そこに住む人々の居住生活の質をある程度保障してきたといえる。しかしながら、都市に居住するマイノリティの側からみると、都市の居住環境とはどのようなものなのか。どのような現実があり、どのような問題が存在するのだろうか。地域社会における障害者の日常生活を、移動の保障、安全性・快適性という観点から講じる。プリントを配布し、それをもとに授業を進める。可能な限り、フィールドワークを取り入れる。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式。発表や討議の時間も設ける。</p> <p>◆教室外学習◆必要に応じて実施する。</p> <p>◆初回講義◆10月5日。</p>						

科目 番号	26	理論経済学Ⅱ	科目区分			難易度
			専門教育科目			B
担当 教員	杭田 俊之 (人文社会科学部法学・経済課程)	授業 曜日	水	授業 時間	14:45~	対象学年
					16:15	1~2年
<p>◆授業の目標◆マクロ経済学の基幹的部分となる議論を取り上げます。現代社会経済の基本的構造と枠組みにたいする理解を深めることにより、マクロ経済(=国民経済)が抱える経済的諸問題について自分なりの評価・判断がおこなえるような経済的視点の獲得を目的とします。</p> <p>◆授業の概要◆さまざまな経済活動をひとつの全体としてとらえるマクロ経済学は、生産、所得、消費、投資、貯蓄、雇用、物価、経済成長など集計概念からなる経済変数の総体的関係から経済全体の状況を理解しようとするものです。一国の経済全体を鳥瞰するという方法をとりながら生産・分配・支出という経済の循環が実現されていくくみをモノの世界(財・サービス市場)、貨幣の世界(金融市場)と順を追って考察し、それが国民生活との関連で特に重要な雇用という問題(労働市場)とどのように結びついているのかを考えていきます。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式を基本とする。教科書による予習・復習を前提として、レジメの配布と板書、および質疑応答によって講義を進めます。また、授業カードを利用して、疑問、問題提起等に答えていきたいと思えます。また、政策論に関心が強く、マクロ経済学を発展的に学ぼうとする受講生を想定しています。</p> <p>◆教室外の学習◆授業のまとめりに設定された「授業カード」そして場合によっては「課題レポート」を作成し、理解度を確認しながら授業を受けるというサイクルになります。</p> <p>◆教科書◆伊藤元重、マクロ経済学、日本評論社、2005年、453552568</p> <p>◆参考文献◆湯浅誠、反貧困、岩波書店、2008年、9784004311249</p> <p>◆初回開講日◆10月7日</p>						

科目 番号	27	被服学 I	科目区分			難易度																										
			専門教育科目			B																										
担当 教員	天木 桂子 (教育学部家政教育科)		授業 曜日	木	授業 時間	14:45～ 16:15	対象学年 1～4年	受講料 4,000円																								
<p>◆授業の目標◆被服学全体のアウトラインを学ぶための科目です。講義では日常の衣生活を意識しながら、繊維の種類と特徴を高分子化学の観点から解説します。また、環境に応じた被服の着こなし、洗濯を中心とする手入れの方法、新素材をめぐる最近の動きなどを解説します。実験は、簡単な器具を用いた繊維や布に関する性質を明らかにするとともに、実験レポートの書き方を学びます。被服製作実習は、縫い方の基本を押さえながら応用作品を制作するとともに、学校現場での指導の留意点を学びます。</p> <p>◆授業の概要◆</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第7回</td> <td>実験 (布の保温性)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>講義 (被服材料・・・何を着るか)</td> <td>第8回</td> <td>講義 (実験の解説とまとめ)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>講義 (被服衛生・・・どう着るか)</td> <td>第9-10回</td> <td>被服製作実習 (縫い方の基本、手芸)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>講義 (被服管理・・・どう扱うか)</td> <td>第11-13回</td> <td>被服製作実習 (作品製作、洋裁)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>講義 (これからの衣生活)</td> <td>第14-15回</td> <td>総まとめと製作実習の予備日</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>実験 (繊維の鑑別・・・燃焼性、溶解性など)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>◆授業の形式◆講義、被服学実験、被服製作実習のすべてを行います。</p> <p>◆教室外の学習◆遅れている課題を行う。</p> <p>◆教科書◆増田美子 他17名、文部科学省検定済教科書 高等学校家庭科用 新訂版「被服」、実教出版、2001年</p> <p>◆留意点◆実験を行うための白衣、実習のための裁縫用具が必要です。また、実習費用として必要に応じて材料代 (実費) を集めます。</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>									第1回	オリエンテーション	第7回	実験 (布の保温性)	第2回	講義 (被服材料・・・何を着るか)	第8回	講義 (実験の解説とまとめ)	第3回	講義 (被服衛生・・・どう着るか)	第9-10回	被服製作実習 (縫い方の基本、手芸)	第4回	講義 (被服管理・・・どう扱うか)	第11-13回	被服製作実習 (作品製作、洋裁)	第5回	講義 (これからの衣生活)	第14-15回	総まとめと製作実習の予備日	第6回	実験 (繊維の鑑別・・・燃焼性、溶解性など)		
第1回	オリエンテーション	第7回	実験 (布の保温性)																													
第2回	講義 (被服材料・・・何を着るか)	第8回	講義 (実験の解説とまとめ)																													
第3回	講義 (被服衛生・・・どう着るか)	第9-10回	被服製作実習 (縫い方の基本、手芸)																													
第4回	講義 (被服管理・・・どう扱うか)	第11-13回	被服製作実習 (作品製作、洋裁)																													
第5回	講義 (これからの衣生活)	第14-15回	総まとめと製作実習の予備日																													
第6回	実験 (繊維の鑑別・・・燃焼性、溶解性など)																															

科目 番号	28	被服学IV	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	天木 桂子 (教育学部家政教育科)		授業 曜日	水	授業 時間	10:30～ 12:00	対象学年 1～4年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆日常生活における様々な「洗浄」を取り上げ、汚れの付着および脱落のメカニズムを科学の面からやさしく解説します。洗浄には石けんや洗剤を利用することが多いですが、なぜ水で洗うより汚れがよく落ちるのでしょうか。また、ドライクリーニングと家庭洗濯はどう違うのか、合成洗剤は本当に自然環境を汚すのかなど、様々な面から洗濯を考えるとともに、最新の洗濯事情にせまります。</p> <p>◆授業の概要◆</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の最新洗濯事情・・・日本の家庭洗濯が大きく変わった！ 2. 洗濯機・・・ドラム式ってもともとヨーロッパで発達した洗濯機なのに、なぜ今日本に？ 3. 汚れの種類と付着メカニズム・・・汚染と染色は何か違う？ドライが得意な汚れが水では簡単に落ちる不思議？ 4. 洗剤・・・お店にいっぱい並ぶ洗剤たち、どこを見て洗剤を選べばいいの？ 5. 界面活性剤・・・汚れ除去の主役です。どんな働きをしているの？ 6. 洗浄補助剤と性能向上剤・・・主役ではないけれど結構役立ってます。 7. 漂白剤、柔軟仕上げ剤、糊剤・・・洗剤のようでちょっと違う、ちょっと一手間かけたい時に。 8. 洗剤と安全性・・・環境保護と環境破壊の狭間で洗剤とどうつきあう？ <p>◆授業の形式◆講義形式で行います。</p> <p>◆教室外の学習◆関連する文献を読むことがあります。</p> <p>◆初回開講日◆10月7日</p>								

科目 番号	29	有機化学	科目区分			難易度																										
			専門教育科目			B																										
担当 教員	木村 賢一 (農学部応用生物化学課程)		授業 曜日	木	授業 時間	8:40~ 10:10	対象学年 2年	受講料 4,000円																								
<p>◆授業の目標◆有機化学は炭素を中心とした化合物の学問であり、生体の重要な構成成分であるDNA、RNA、蛋白質(酵素)はもとより、医薬品、食品中の健康に有効な成分、環境ホルモン等も有機化合物である。このように、生命科学においても有機化学は基本となる学問であり、有機化学を理解することで生命科学の幅をさらに広げることを目的とする。</p> <p>◆授業の概要◆基本的に教科書に従って第1章から第12章までを行う。ただし、内容によっては理解のしやすさから教科書を前後することもある。授業内容に関連して、医薬品や生命科学にとって重要な化合物の紹介など天然物化学(生物有機化学)の内容を併せて行う。</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回 講義内容の紹介、その進め方、及び概論</td> <td>第9回 第7章</td> <td>ハロゲン化アルキル</td> </tr> <tr> <td>第2回 第1章 構造と結合：酸と塩基</td> <td>第10回 第8章</td> <td>アルコール、フェノール、エーテル</td> </tr> <tr> <td>第3回 第2章 有機化合物の性質</td> <td>第11回 第9章</td> <td>アルデヒドとケトン：求核付加反応</td> </tr> <tr> <td>第4回 第3章 有機反応の性質：アルケン</td> <td>第12回 第10章</td> <td>カルボン酸とその誘導体</td> </tr> <tr> <td>第5回 第4章 アルケンとアルキンの反応</td> <td>第13回 第11章</td> <td>カルボニル化合物のα置換反応と縮合反応</td> </tr> <tr> <td>第6回 第5章 芳香族化合物</td> <td>第14回 第12章</td> <td>アミン</td> </tr> <tr> <td>第7回 第6章 立体化学</td> <td>第15回</td> <td>期末試験</td> </tr> <tr> <td>第8回 第6章 立体化学</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>◆授業の形式◆教科書に沿った内容と、それに関連した生物系の化合物の講義。</p> <p>◆教室外の学習◆教科書を少なくとも3回読んでください。</p> <p>◆教科書◆ John McMurry、マクマリー 有機化学概説、東京化学同人、2007年、9784807906628 Paula Y. Bruice、ブルース有機化学概説第2版、化学同人、2010年、9784759811995</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>									第1回 講義内容の紹介、その進め方、及び概論	第9回 第7章	ハロゲン化アルキル	第2回 第1章 構造と結合：酸と塩基	第10回 第8章	アルコール、フェノール、エーテル	第3回 第2章 有機化合物の性質	第11回 第9章	アルデヒドとケトン：求核付加反応	第4回 第3章 有機反応の性質：アルケン	第12回 第10章	カルボン酸とその誘導体	第5回 第4章 アルケンとアルキンの反応	第13回 第11章	カルボニル化合物の α 置換反応と縮合反応	第6回 第5章 芳香族化合物	第14回 第12章	アミン	第7回 第6章 立体化学	第15回	期末試験	第8回 第6章 立体化学		
第1回 講義内容の紹介、その進め方、及び概論	第9回 第7章	ハロゲン化アルキル																														
第2回 第1章 構造と結合：酸と塩基	第10回 第8章	アルコール、フェノール、エーテル																														
第3回 第2章 有機化合物の性質	第11回 第9章	アルデヒドとケトン：求核付加反応																														
第4回 第3章 有機反応の性質：アルケン	第12回 第10章	カルボン酸とその誘導体																														
第5回 第4章 アルケンとアルキンの反応	第13回 第11章	カルボニル化合物の α 置換反応と縮合反応																														
第6回 第5章 芳香族化合物	第14回 第12章	アミン																														
第7回 第6章 立体化学	第15回	期末試験																														
第8回 第6章 立体化学																																

科目 番号	30	栄養化学	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	長澤 孝志 (農学部応用生物化学課程)		授業 曜日	金	授業 時間	10:30~ 12:00	対象学年 2年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆高齢化社会といわれる現在、健康への関心が高まっています。健康機能の解明や高付加価値食品の開発には、食品成分の代謝について正しい理解が必要です。この授業では、栄養素エネルギーへの転換、生体高分子への合成、また生理活性物質や食品成分による代謝の調節と破綻(疾病)について学ぶことを目的とします。</p> <p>◆授業の概要◆まず食品成分の消化、吸収について学び、ついで炭水化物の代謝と栄養、脂質の代謝と栄養、タンパク質の代謝と栄養について学びます。さらにこれらを総合した体全体の代謝の調節を主要臓器間の相関を中心に学びます。</p> <p>◆授業の形式◆講義形式で行います。質問やレスポンスカードによる理解度の確認を行います。</p> <p>◆教室外の学習◆課題を出すことがある。</p> <p>◆教科書◆佐藤、長澤編著、わかりやすい食品機能栄養学、三共出版、2010年、9784782705759</p> <p>◆参考書◆金本龍平編、分子栄養学、化学同人、2005年、4759812148 佐藤、今川、生活習慣病の分子生物学、三共出版、2007年、9784782705322 小田、加藤、関、健康栄養学、共立出版、2005年、4320016535</p> <p>◆留意点◆教科書は変更になることがあります。</p> <p>◆初回開講日◆10月2日</p>								

科目 番号	31	美味学	科目区分			難易度																		
			専門教育科目			B																		
担当 教員	三浦 靖・長澤孝志 (農学部応用生物化学課程)		授業 曜日	木	授業 時間	8:40~ 10:10	対象学年 3年	受講料 4,000円																
<p>◆授業の目標◆ヒトは視覚、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚（触覚、温度覚）により総合的に食品の「おいしさ」を知覚、評価している。美味学（gastonomie）では、食品のおいしさに関わる生物関連科学、心理学関連科学、工学関連科学の知識を総合的に学ぶことを目的とする。</p> <p>◆授業の概要◆前半を長澤教員が、後半を三浦教員が講義する。前半部では、味覚、嗅覚、視覚物質の化学とそれらの受容と脳へ情報伝達、および心理学的要素を学ぶ。後半は、食品テクスチャーに関して、定義、おいしさとの関連性、評価方法、健康との関連性について学ぶ。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 食品の「おいしさ」の要因、味覚物質の化学（甘味）</td> <td>9 おいしさと食品テクスチャー（1）</td> </tr> <tr> <td>2 味覚物質の化学（甘味、酸味、塩味）</td> <td>10 おいしさと食品テクスチャー（2）</td> </tr> <tr> <td>3 味覚物質の化学（苦味、うま味、辛味など）</td> <td>11 食品テクスチャー評価（1）</td> </tr> <tr> <td>4 香りの化学、味覚生理学</td> <td>12 食品テクスチャー評価（2）</td> </tr> <tr> <td>5 味覚の脳内機構</td> <td>13 食品テクスチャーと健康（1）</td> </tr> <tr> <td>6 おいしさの学習</td> <td>14 食品テクスチャーと健康（2）</td> </tr> <tr> <td>7 栄養とおいしさ、特に脂質について</td> <td>15 成績評価</td> </tr> <tr> <td>8 食品テクスチャーとは何か</td> <td></td> </tr> </table> <p>◆授業の形式◆講義を主体とし、必要に応じVTRなどを利用する。</p> <p>◆教室外の学習◆テキストや事前に渡された教材を用いて、当該内容を必ず予習すること。</p> <p>◆教科書◆川端晶子編著、光琳選書4 食品とテクスチャー、光琳、2003年、477120019X</p> <p>◆参考文献◆吉田監修、小関、佐藤編、わかりやすい食物と健康1 食品とその成分、三共出版、2007年、9784782705292 増成隆士・川端晶子編著、21世紀の調理学3 美味学、建帛社、1997年、4767964032 中濱信子、大越ひろ、森高初恵、改訂新版 おいしさのレオロジー、アイ・ケイ・コーポレーション、2011年、9784874922897 伏木 亨、新潮新書「コクと旨味の秘密」、新潮社、2005年</p> <p>◆留意点◆「おいしさ」に関わる成分的要素、五感の感覚情報と食品特性の知覚・認識、食品の「おいしさ」の判定過程の基礎事項を理解してもらいたい。</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>									1 食品の「おいしさ」の要因、味覚物質の化学（甘味）	9 おいしさと食品テクスチャー（1）	2 味覚物質の化学（甘味、酸味、塩味）	10 おいしさと食品テクスチャー（2）	3 味覚物質の化学（苦味、うま味、辛味など）	11 食品テクスチャー評価（1）	4 香りの化学、味覚生理学	12 食品テクスチャー評価（2）	5 味覚の脳内機構	13 食品テクスチャーと健康（1）	6 おいしさの学習	14 食品テクスチャーと健康（2）	7 栄養とおいしさ、特に脂質について	15 成績評価	8 食品テクスチャーとは何か	
1 食品の「おいしさ」の要因、味覚物質の化学（甘味）	9 おいしさと食品テクスチャー（1）																							
2 味覚物質の化学（甘味、酸味、塩味）	10 おいしさと食品テクスチャー（2）																							
3 味覚物質の化学（苦味、うま味、辛味など）	11 食品テクスチャー評価（1）																							
4 香りの化学、味覚生理学	12 食品テクスチャー評価（2）																							
5 味覚の脳内機構	13 食品テクスチャーと健康（1）																							
6 おいしさの学習	14 食品テクスチャーと健康（2）																							
7 栄養とおいしさ、特に脂質について	15 成績評価																							
8 食品テクスチャーとは何か																								

科目 番号	32	食品生産システム学	科目区分			難易度																																
			専門教育科目			B																																
担当 教員	三浦 靖 (農学部応用生物化学課程)		授業 曜日	木	授業 時間	13:00~ 14:30	対象学年 4年	受講料 4,000円																														
<p>◆授業の目標◆食品の製造は、製品企画、製品設計、生産計画、工程計画、原料・包装材等の調達、受け入れ検査、保管、加工、評価、検査、出荷などの各ステップから構成される一連のシステムである。食品生産システム学は、食品を対象にした生産システム工学（manufacturing systems engineering）である。したがって、食品生産システム学ではシステム工学、オペレーションズ・リサーチ（OR）、制御工学、情報工学、経済工学、生産経済学などについての知識が要求される。本科目では、食品製造における種々の管理、知的財産、環境科学に関わる基礎知識を習得し、食品製造に携わる技術者としての生産システム工学のおよびESD（持続可能な開発のための教育、Education for Sustainable Development）的なセンスを身につけることを目標とする。</p> <p>◆授業の概要◆ 食品製造における各種の管理、知的財産について解説する。</p> <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>新製品開発の企画</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>新製品の試作と工業化</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>生産システム（1）</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>生産システム（2）</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>生産のプロセス・システム（1）</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>生産のプロセス・システム（2）</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>生産のマネジメント・システム（1）</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>生産のマネジメント・システム（2）</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>生産の価値システム（1）</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>生産の価値システム（2）</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>生産の社会システム</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>知的財産（1）</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>知的財産（2）</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>総合衛星管理製造と関連法規</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>評価</td></tr> </table> <p>◆授業の形式◆講義形式</p> <p>◆教室外の学習◆教科書に記載されている専門用語の英語表記、意味を調べる。</p> <p>◆教科書◆人見勝人、入門編 生産システム工学 第5版、共立出版、2011年、9784320081727 経済産業省特許庁 工業所有権情報・研修館、産業財産権標準テキスト 総合編 第4版、発明推進協会、2012年、9784827111910</p> <p>◆参考文献◆岩田直樹、食品開発の進め方、幸書房、2002年、4782102119</p> <p>◆留意点◆食品製造における各種の管理、知的財産の基礎事項を理解してもらいたい。</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>									第1回	新製品開発の企画	第2回	新製品の試作と工業化	第3回	生産システム（1）	第4回	生産システム（2）	第5回	生産のプロセス・システム（1）	第6回	生産のプロセス・システム（2）	第7回	生産のマネジメント・システム（1）	第8回	生産のマネジメント・システム（2）	第9回	生産の価値システム（1）	第10回	生産の価値システム（2）	第11回	生産の社会システム	第12回	知的財産（1）	第13回	知的財産（2）	第14回	総合衛星管理製造と関連法規	第15回	評価
第1回	新製品開発の企画																																					
第2回	新製品の試作と工業化																																					
第3回	生産システム（1）																																					
第4回	生産システム（2）																																					
第5回	生産のプロセス・システム（1）																																					
第6回	生産のプロセス・システム（2）																																					
第7回	生産のマネジメント・システム（1）																																					
第8回	生産のマネジメント・システム（2）																																					
第9回	生産の価値システム（1）																																					
第10回	生産の価値システム（2）																																					
第11回	生産の社会システム																																					
第12回	知的財産（1）																																					
第13回	知的財産（2）																																					
第14回	総合衛星管理製造と関連法規																																					
第15回	評価																																					

科目 番号	33	食品保蔵学	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	塚本知玄 (農学部応用生物化学課程)		授業 曜日	金	授業 時間	10:30~ 12:00	対象学年 3年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆食品保蔵学は、食品品質劣化を制御するための理論や技術を体系化したものです。現代社会が求める各種要請（より美味しく、より安全・安心で、より健康に役立つなど）に応えるための食品保蔵の考え方の理解と、食品の保蔵に必要な各種の基本的理論や技術の理解を目的としています。</p> <p>◆授業の概要◆</p> <p>第1～2回 1. 食品保蔵の概念 歴史的観点から・食品保蔵の役割・安全安心な食糧供給システム</p> <p>第3～7回 2. 食品劣化に関わる環境因子 温度・水分・pH・電磁場・酵素・その他</p> <p>第8～10回 3. 微生物の制御 殺菌・静菌と除菌・バイオプリザベーション・ハードル理論・包装</p> <p>第11～14回 4. 各種保蔵の実際：原理と問題点 低温貯蔵・CA貯蔵・乾燥・塩蔵・缶詰ビン詰・くん製・その他</p> <p>第15回 期末試験</p> <p>◆授業の形式◆講義は対話形式で進めます。毎回、受講者に質問します。</p> <p>◆教室外の学習◆</p> <p>1. 予習課題 市場に出回っている各種食品について日頃から関心を向け、食品の種類、保存の温度、包装形態等と賞味期間との関係等を確認しておいてください。</p> <p>2. 復習課題 授業で出た内容についてあらためて、市場の各種食品を観察し、再確認してください。</p> <p>◆初回開講日◆10月2日</p>								

科目 番号	34	植物育種学 I	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	高畑 義人 (農学部農学生命課程)		授業 曜日	金	授業 時間	10:30~ 12:00	対象学年 2～4年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆農学分野で重要な植物育種について、その基礎理論及びそれに基づいた実際的手法、さらには品種育成による社会的効果について理解することを目的とする。</p> <p>◆授業の概要◆植物育種の基礎となっている遺伝、生殖等について概説した後、導入育種法、分離育種法、交雑育種法、雑種強勢育種法、突然変異育種法等について、その基礎となっている理論及び実際的手法等について講義する。</p> <p>◆授業の形式◆講義資料を配付し、それを参考にしながら講義を行う。</p> <p>◆教室外の学習◆参考書、講義資料などにより、予習、復習を十分に行う。また、新聞やテレビなど育種関係の報道を見て、最新の情報も得るようにする。</p> <p>◆教科書◆西尾剛・吉村淳 編、植物育種学 第4版、文永堂、2012年、9784830041228</p> <p>◆留意点◆「遺伝学概論」を履修しておくこと。</p> <p>◆初回開講日◆10月2日</p>								

科目 番号	35	植物ストレス応答学	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	伊藤 菊一 (農学部寒冷バイオフロンティア研究センター)		授業 曜日	木	授業 時間	10:30~ 12:00	対象学年 2～4年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆植物を取り巻く環境ストレスとその応答メカニズムについて理解を深める。</p> <p>◆授業の概要◆温度ストレス等の植物ストレスに対する応答について複数の事例を挙げて解説する。</p> <p>◆授業の形式◆板書を中心とした講義形式が基本。授業内容を詳説したプリントを配布する。講義ではディスカッションを行い、受講生ができるだけ自ら考えることができる工夫をする。</p> <p>◆教室外の学習◆特に予定していないが、スカイプ等により学外から講義をする場合がある。</p> <p>◆初回開講日◆10月1日</p>								

科目 番号	36	森林化学	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	小藤田 久義 (農学部共生環境課程)		授業 曜日	水	授業 時間	10:30~ 12:00	対象学年 2年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆最大の森の恵みである樹木を有効に利用していくためには、その構成成分に関する化学的な知識が必要となる。本講義では樹木の構成成分および木材利用に関する化学的な基礎知識を身につけるとともに、林産物の主要な利用形態を知る。</p> <p>◆授業の概要◆はじめに、樹木の組織とそれを構成する化学成分について化学構造と存在形態を中心に学ぶ。次いで、特用林産物である木炭および食用キノコの生産について述べる。紙パルプの製造技術に関しては、パルプの製造・漂白、廃液の回収利用、古紙の再生および各種原料パルプからの紙製品製造法について概括的に述べる。</p> <p>◆授業の形式◆板書による講義主体。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>◆教室外の学習◆予習・復習や課題レポートなどの宿題に取り組むための自己学習時間を確保すること。(自己学習時間は60時間とされている。)本講義は森林資源の化学的利用に関する講義の基礎となるため、教科書や講義ノートを用いて適宜復習しておくことが望ましい。自習の過程で生じた疑問は教官室で受け付けるので、各自積極的に取り組むことを希望する。</p> <p>◆教科書◆城代進・鮫島一彦編、木材化学講座 4 「化学」、海青社、1993年、4906165443</p> <p>◆参考文献◆大江礼三郎他『パルプおよび紙』文永堂出版(1991)、483004053X 森林総合研究所監修『木材工業ハンドブック』丸善(2004)4621074113</p> <p>◆初回開講日◆10月7日</p>								

科目 番号	37	基礎放射線学	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	宇塚 雄次 (農学部共同獣医学科)		授業 曜日	火	授業 時間	10:30~ 12:00	対象学年 2年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆放射線を理解するための物理、化学に関する基本的知識を持つ。放射線の生物影響を理解して、放射線障害を受けずに医学的利用を行うことができるための基本的理解をする。</p> <p>◆授業の概要◆放射線に関わる知識について、説明する。また放射線やラジオアイソトープの医学的活用についても学ぶ。最後に、放射線による生物学的影響や障害についての概念や、それに関わる法令に関して学び、安全な放射線取り扱いについて学習する。</p> <p>◆授業の形式◆配布資料と参考書を基にした講義形式。</p> <p>◆教室外の学習◆ラジオアイソトープ施設の見学を予定している。</p> <p>◆教科書◆窪田 宣夫 編、放射線生物学、医療科学社</p> <p>◆初回開講日◆10月6日</p>								

科目 番号	38	電気数学	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	本間 尚樹 (工学部電気電子・情報システム工学科)		授業 曜日	水	授業 時間	14:45~ 16:15	対象学年 1年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆電気数学は、電気を学ぶ上で必要な計算手法を学ぶ科目であり、数学を電気に応用できる能力を育成することが目的である。本講義では、電気電子工学の基礎科目である電気回路論と電磁気学を学ぶために必要な数学を学ぶ。電気電子工学の専門的な問題の解決に対して、数学のテクニックをツールとして使えるようにする。</p> <p>◆授業の概要◆はじめに、三角関数、微分、積分、行列、行列式を、電気回路の問題を通じて学ぶ。また、電気電子工学と複素数の関わりについて、交流理論の例題を中心に学習する。微分方程式は電気回路の過渡現象を例にとりながら学ぶ。次に、ベクトルの演算を復習し、電磁気学の例題を中心に、勾配、発散、回転、線積分、面積分等の場の演算を学ぶ。これらの学習を通じて、工学基礎専門の数学への導入を行う。</p> <p>◆授業の形式◆板書、教科書、配布資料を用いた授業</p> <p>◆教室外の学習◆「演習課題」は必ず自力で解いて提出すること(白紙での提出・他人の解答の書き写し・提出の無い場合は出席と見なさない)。教室外学習を習慣化させ、授業外学習として180分の演習時間を各自で必ず確保すること。教科書の演習問題を講義の進度に応じて各自でノートに解くこと(特に、講義中にやっておくように指示した問題は必ずやること)。当然のことながら、教科書、配布資料、講義ノートはよく読み、予習・復習をすること。</p> <p>◆教科書◆高木浩一 他、大学一年生のための電気数学、森北出版、2006年、978462773461</p> <p>◆参考文献◆高木浩一 他、できる電気回路演習、森北出版、2009年、9784627735712 小亀英己・石亀篤司、基礎からの交流理論例題演習、オーム社(電気学会)、2010年、9784886862815 川島純一・斎藤広吉、電気基礎 上下、東京電機大学出版局 奥村浩士、エース電気回路理論入門、朝倉書店、2002年、9784254227468</p> <p>◆留意点◆電気電子工学基礎論、微分積分学Ⅰ、線形代数学を履修していることを前提として講義するので、完全にマスターしておくこと。また、微分積分学Ⅱ、微分方程式、物理学を併せて履修することが望ましい。これらの科目は強く関連している科目であるので、これを強く意識して学習すること。2年で開講されるベクトル解析では、ベクトル場の基本的な演算(勾配、発散、回転)ができることを前提に講義を展開するので、練習して確実に計算できるようにすること。</p> <p>◆初回開講日◆10月7日</p>								

科目 番号	39	基礎有機化学	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	嶋田 和明 (工学部応用化学・生物工学科)		授業 曜日	火	授業 時間	10:30～ 12:00	対象学年 1年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆自然界であるいは我々の身の回りで有機化学がどのように関わっているかを理解するために、本講義では有機化学の中心テーマである分子構造と化学反応性の関係を学ぶ。具体的には、官能基ごとの構造と性質を静的に、有機化合物の合成と反応機構を動的に理解することを目的とする。</p> <p>◆授業の概要◆本講義では、(1) アルカン・アルケン・アルキン：構造と化学反応性の関連、(2) 立体化学、(3) ハロゲン化アルキル：構造と化学反応性、(4) アルケン・アルキン類の反応：求電子付加とシス付加、(5) 構造決定：質量分析法、赤外分光法、核磁気共鳴分光法、紫外可視分光法、の各項目について学ぶ。</p> <p>◆授業の形式◆基本的には講義形式であるが、指定の教科書の章立てを縦糸にしつつも教員の化学反応の大分類を横糸とする形の講義を行うことにより官能基の構造と化学反応性を関連づけながら学ぶように進行する。さらに必要に応じて教員作成による配付資料等を併用する。</p> <p>◆教室外の学習◆本講義では下記教科書の中の適当な演習問題や関連する問題を課題として3回ほど課する。さらにこの課題レポートのすべてを期限内に提出した者のみを学期末試験の採点の対象者とする。</p> <p>◆教科書◆マクマリー著、伊東・児玉ほか訳、「マクマリー 有機化学 第8版」(上)、東京化学同人、2013年、9784807908097</p> <p>◆参考文献◆畦田・鈴木・高木・川淵共著、「これでわかる 基礎有機化学演習」、三共出版株式会社、2012年、9784782706664</p> <p>◆初回開講日◆10月6日</p>								

科目 番号	40	電力工学基礎論	科目区分			難易度		
			専門教育科目			B		
担当 教員	向川 政治 (工学部電気電子・情報システム工学科)		授業 曜日	月	授業 時間	13:00～ 14:30	対象学年 3年	受講料 4,000円
<p>◆授業の目標◆最も利用しやすいエネルギーである電気エネルギーについて、他のエネルギーから高い効率で変換する方法を習得する。</p> <p>◆授業の概要◆学習項目として、水力発電、汽力発電、原子力発電の従来型発電および風力、太陽光燃料電池、核融合などの将来型発電の原理の理解と実用化された技術について学ぶ。</p> <p>◆授業の形式◆教科書、板書、配布資料を活用する口述講義。</p> <p>◆教室外の学習◆電気エネルギー変換工学および物理の基礎を幅広く復習しておく。</p> <p>◆教科書◆加藤政一、中野茂、西江嘉晃、桑江良明、電力発生工学、数理科学社、2012年、9784901683906</p> <p>◆参考文献◆柴田岩夫、三澤茂、エネルギー変換工学、森北出版株式会社、1990年、4627705700 矢野隆、大石隼人、発電電工学入門、森北出版株式会社、1995年、9784627749709</p> <p>◆初回開講日◆10月5日</p>								

※内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

公開授業講座Q & A

Q：「公開授業講座」と「公開講座」とはどこが違うのですか。

A：「公開授業講座」は学生向けの授業の公開ですから、学生と一緒に、それぞれの授業時間帯に受講してもらいます。土曜・日曜や夜間の開講は原則としてありません。また、「公開講座」は受講していただく皆さんにご理解いただけるような内容を準備しますが、「公開授業講座」は、学生向けの授業をそのまま受講していただくこととなりますので、授業内容・レベルに特別の配慮をしていません。その点をご了解いただきたいと思います。

Q：学生向けの授業ですと、受講するための資格が何かあるのですか。

A：内容は学生向けのレベルですから、高卒または同等程度の学力があることが最低条件となります。ただし、そのための資格審査等は一切行いません。したがって、授業の内容を理解できると皆さんがご判断されれば、それが受講資格となります。

Q：学生向けのレベルといわれても、よくわかりませんが・・・

A：各授業科目ごとに、次のような難易度を表示していますので、参考にしてください。

難易度A：入門的な内容で、高卒程度の学力を必要とするもの（入門的とは、大学生がその分野で初めて受講する、という意味です。イメージとしては1年次学生向けですが、実際には2～4年次向けの場合もあります。）

難易度B：より進んだ内容で、当該分野についての一定の基礎知識を必要とするもの（その分野に関するある程度の基礎知識がないと、理解するのが難しい場合があります。）

難易度C：高度な内容で、当該分野についての一定の専門知識を必要とするもの（その分野に関する系統的な知識がないと、理解するのが難しい場合があります。）

Q：それでも、よくわかりませんが・・・

A：授業の最初の1～2回は試聴期間として、市民の皆さんに自由に受講していただきます。1回目はガイダンス（どんな内容の授業を行うかの説明）の場合が多いのですが、この期間に、皆さんが求めている内容・レベルの授業かどうかを確かめてください。また、授業概要のなかに、参考までに、授業の対象学年も記載しておきました。

Q：授業は何回くらいあるのですか。

A：科目によって異なりますが、10月上旬から2月上旬まで、15回の講義を行いますが、教員の都合で休講になる場合もあります。なお、試験は原則として受けられません。

Q：受講料はいくらですか。

A：基本は90分授業・週1回で、1科目4千円です。なお、科目によっては教科書や教材などが必要な場合がありますが、これらは自己負担になります。

Q：何科目受講してもよいのですか。

A：はい。授業時間が重ならない限り、何科目でも受講できます。

休講・補講、来学方法等

1. 休講・補講について

担当教員の都合により休講となる場合があります。休講の連絡は基本的には学内の学生用掲示板（後掲配置図参照）に掲示されますが、掲示が間に合わない場合もあります。特に、教員の急病等により当日の休講もあり得ますので、ご承知おきください。

補講（休講の代わり）が行われる場合の連絡も、学生用掲示板に掲示されます。また、担当教員が授業時間中に直接伝える場合もあります。

2. 来学方法

授業期間中は駐車場が大変混み合います。学内の駐車スペースが少ないため、来学にあたっては、なるべく公共交通機関等をご利用くださるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

自家用車で来学される場合は、門入り口の警備員室にて「公開授業講座を受講」の旨を伝えてください。

3. 受講生の呼び出し等

授業中その他、受講生の呼び出し・取り次ぎ・伝言等は、対応できかねますので、あらかじめご了承ください。また、授業時間中は、携帯電話の電源をお切りください。

公開授業科目 講義室一覧

No.	授 業 科 目 名	曜日	授業時間帯	担当教員	講 義 室
①	漢文学講義	水	14：45～16：15	藪 敏 裕	総合教育研究棟（教育系）E26
②	日本の文学	水	8：40～10：10	家 井 美千子	学生センターB棟 GB21
③	日本文学講義Ⅱ	月	13：00～14：30	家 井 美千子	学生センターA棟 G29
④	言葉の世界	木	10：30～12：00	小 島 聡 子	総合教育研究棟（教育系）E21
⑤	言語習得論Ⅱ	金	10：30～12：00	松 林 城 弘	学生センターA棟 G28
⑥	日本語と社会	木	10：30～12：00	大 野 眞 男	総合教育研究棟（教育系）E27
⑦	日本の思想と文化	水	8：40～10：10	中 村 安 宏	学生センターA棟 G1大
⑧	欧米の思想と文化	月	16：30～18：00	池 田 成 一	学生センターB棟 GB11
⑨	社会文化思想論Ⅳ	金	10：30～12：00	池 田 成 一	学生センターB棟 GB21
⑩	環境文化論Ⅰ	金	14：45～16：15	開 龍 美	学生センターA棟 G18
⑪	環境文化論Ⅱ	水	14：45～16：15	開 龍 美	学生センターA棟 G18
⑫	英語構造論Ⅳ	木	13：00～14：30	橋 本 学	学生センターA棟 G37
⑬	日本語教材論	水	13：00～14：30	松 岡 洋 子	総合教育研究棟（教育系）E28
⑭	日本の歴史と文化	木	13：00～14：30	菅 野 文 夫	学生センターA棟 G1大
⑮	古文書学	月	14：45～16：15	菅 野 文 夫	総合教育研究棟（教育系）E26
⑯	日本史概論Ⅱ	金	13：00～14：30	菅 野 文 夫	総合教育研究棟（教育系）E24
⑰	民法(家族法)Ⅱ	水	13：00～14：30	宮 本 ともみ	学生センターA棟 G1大
⑱	憲法	月	8：40～10：10	藤 本 幸 二	学生センターA棟 G1大
⑲	地理学概論	月	10：30～12：00	遠 藤 匡 俊	総合教育研究棟（教育系）E26
⑳	教育心理学	木	16：30～18：00	岩 木 信 喜	学生センターC棟 GC2大
㉑	知的障害教育指導法	木	8：40～10：10	名古屋 恒 彦	総合教育研究棟（教育系）E21
㉒	知的障害教育授業論	木	16：30～18：00	名古屋 恒 彦	総合教育研究棟（教育系）E27
㉓	特別支援教育概説	木	14：45～16：15	佐々木 全	総合教育研究棟（教育系）E21
㉔	社会的人間論	月	8：40～10：10	麦 倉 哲	学生センターA棟 G2大
㉕	地域社会論	月	14：45～16：15	麦 倉 哲	総合教育研究棟（教育系）E31
㉖	理論経済学Ⅱ	水	14：45～16：15	杭 田 俊 之	学生センターA棟 G29
㉗	被服学Ⅰ	木	14：45～16：15	天 木 桂 子	総合教育研究棟（教育系）E213
㉘	被服学Ⅳ	水	10：30～12：00	天 木 桂 子	総合教育研究棟（教育系）E324
㉙	有機化学	木	8：40～10：10	木 村 賢 一	農学部7番講義室
㉚	栄養化学	金	10：30～12：00	長 澤 孝 志	農学部2番講義室
㉛	美味学	木	8：40～10：10	三 浦 靖 志 長 澤 孝 志	農学部2番講義室
㉜	食品生産システム学	木	13：00～14：30	三 浦 靖	農学部3番講義室

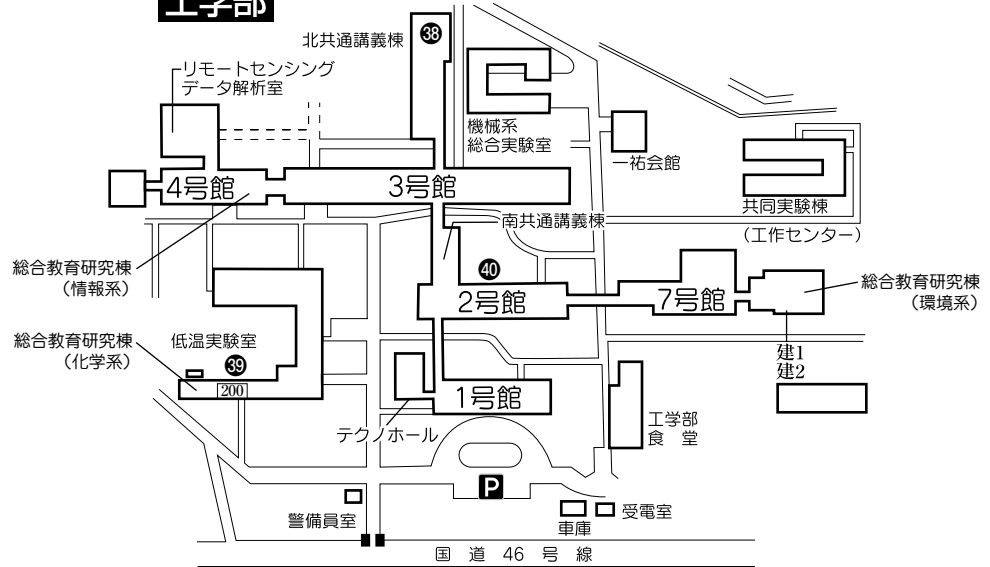
No.	授 業 科 目 名	曜日	授業時間帯	担当教員	講 義 室
㉓	食品保蔵学	金	10：30～12：00	塚 本 知 玄	農学部4番講義室
㉔	植物育種学 I	金	10：30～12：00	高 畑 義 人	農学部7番講義室
㉕	植物ストレス応答学	木	10：30～12：00	伊 藤 菊 一	農学部2番講義室
㉖	森林化学	水	10：30～12：00	小藤田 久 義	農学部5番講義室
㉗	基礎放射線学	火	10：30～12：00	宇 塚 雄 次	農学部5番講義室
㉘	電気数学	水	14：45～16：15	本 間 尚 樹	工学部17番講義室
㉙	基礎有機化学	火	10：30～12：00	嶋 田 和 明	総合教育研究棟（化学系）200室
㉚	電力工学基礎論	月	13：00～14：30	向 川 政 治	工学部23番講義室

表中の㉓～㉚は、P23～25の講義室配置図の番号と対応しています。

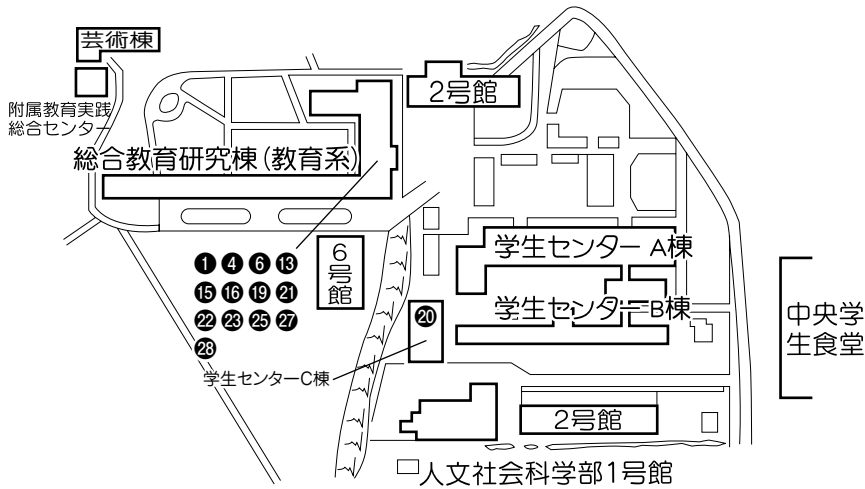
なお、講義室は変更になる場合があります。学生センター1階の学務課でお尋ねください。

各学部講義室配置図

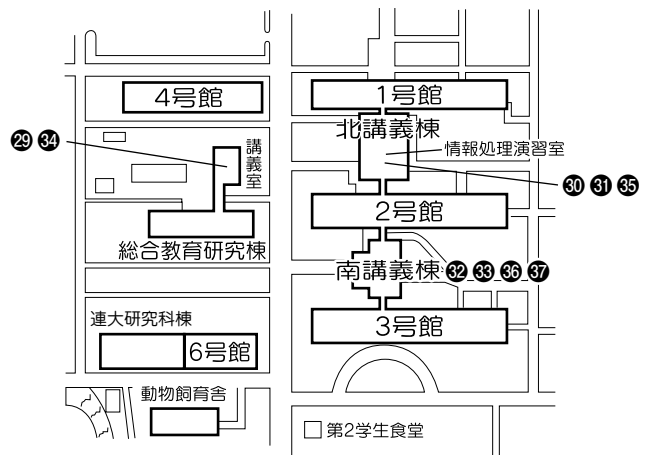
工学部



教育学部・人文社会学部

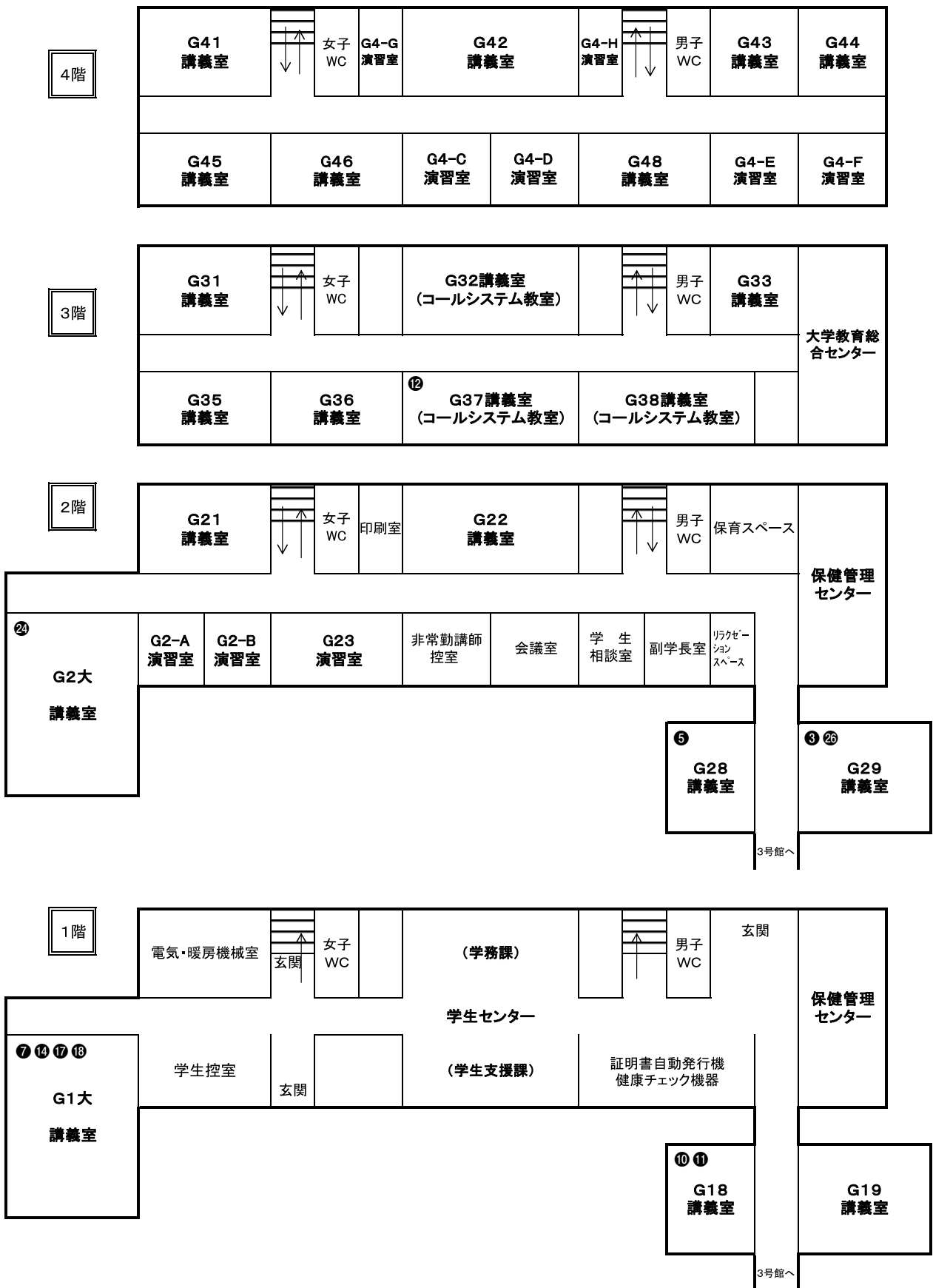


農学部



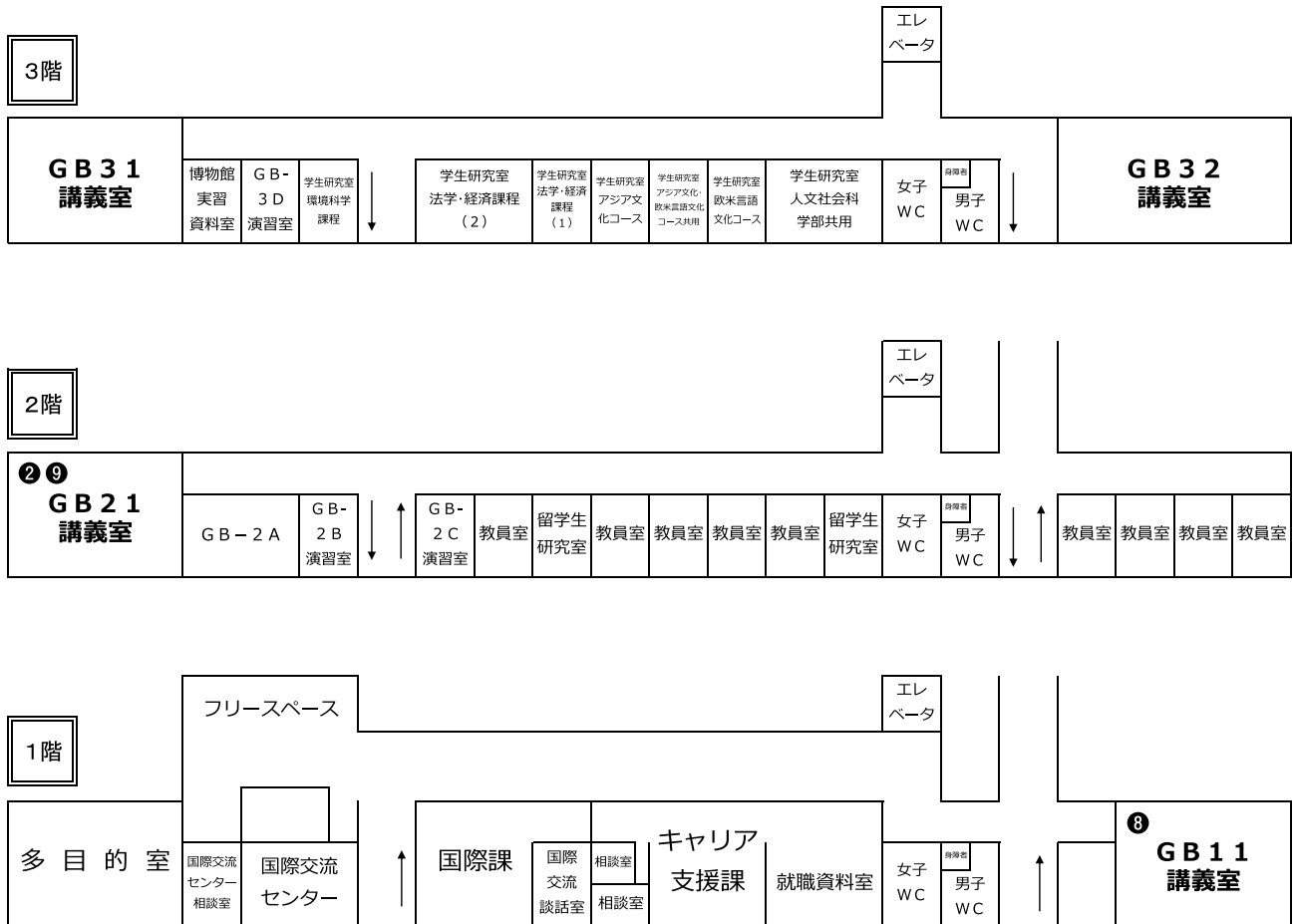
注：図中の●数字は、P21～22の（講義室一覧）の番号と対応しています。

学生センターA棟講義室配置図



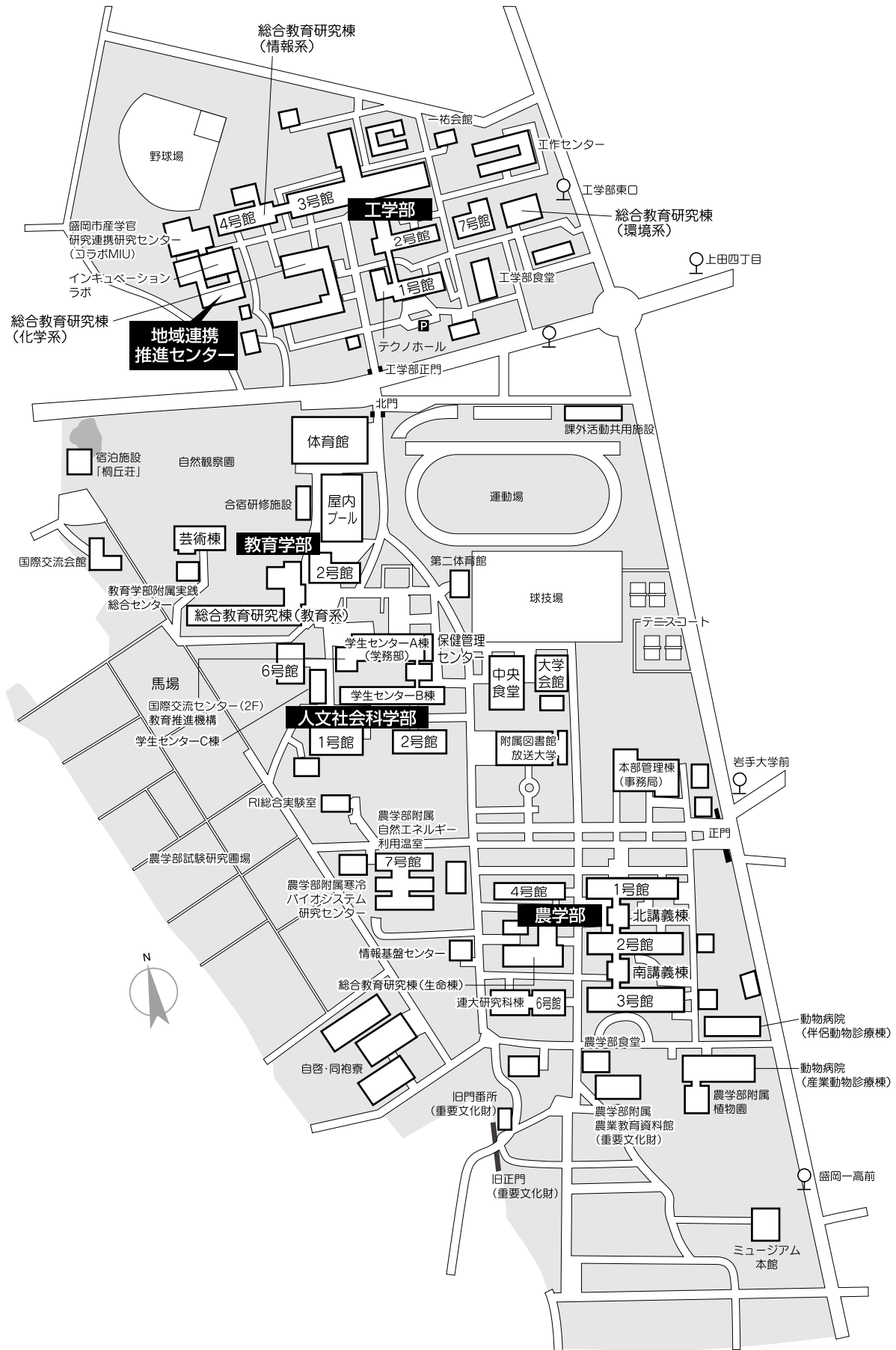
注：図中の●数字は、P 21～22の（講義室一覧）の番号と対応しています。

学生センターB棟講義室配置図

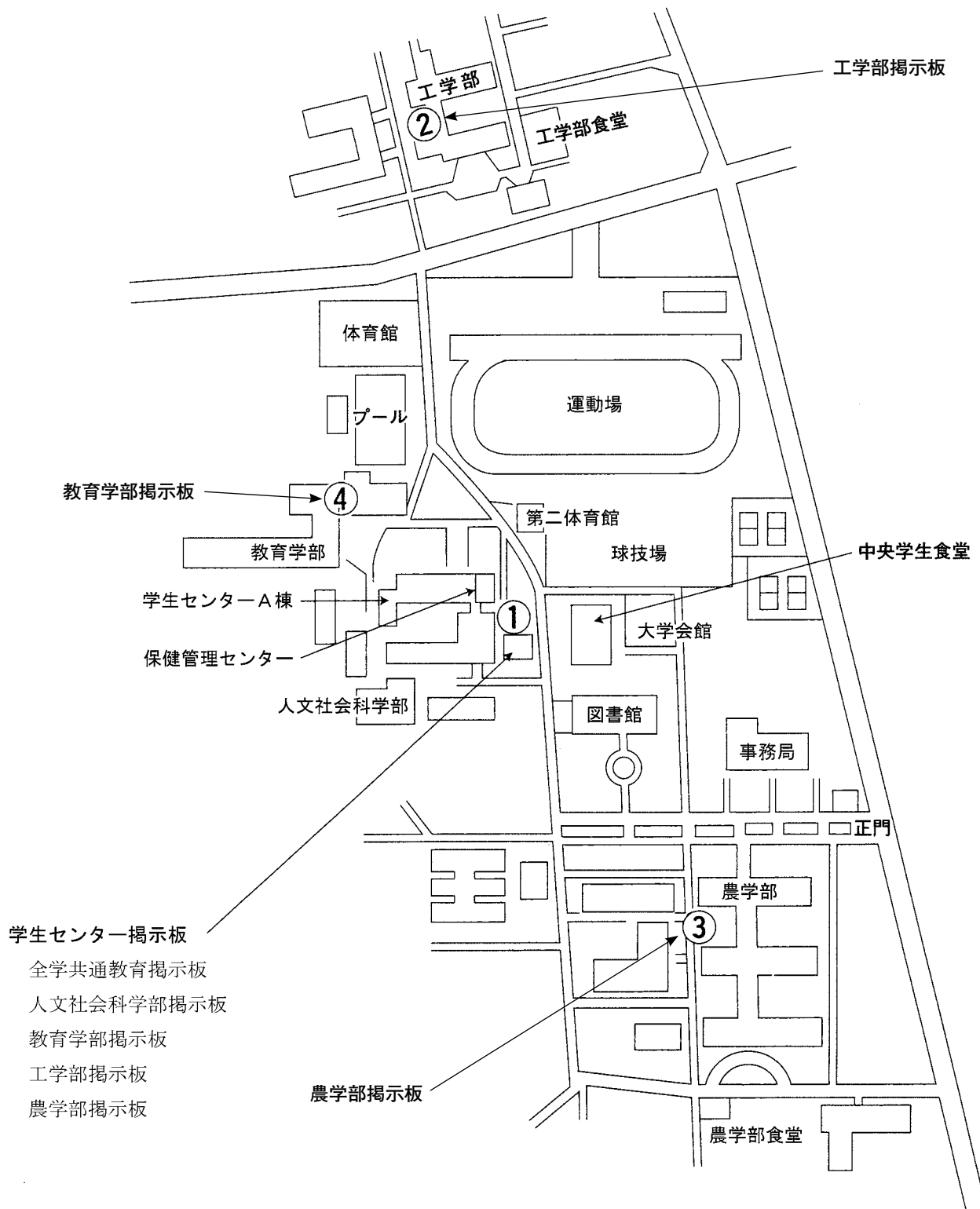


注：図中の●数字は、P21～22の（講義室一覧）の番号と対応しています。

岩手大学キャンパス案内



学生用掲示板配置図



利 用 証	有 効 期 限	2 0 1 6 年 3 月 3 1 日	新規・更新
	発 効 日	2 0 1 5 年 月 日	再発行 (09000)
	I D	0 9 0 0 1	貸出 可・不可

下記の項目をご記入ください。

利 用 申 請 書

Visitor Form

平成 2 7 年 月 日

Date

岩手大学図書館長 殿

Chief Librarian, Iwate University Library

ふ り が な 氏 名 Name	_____
現 住 所 Address	〒 _____ TEL _____ () _____
連 絡 先 Contact	〒 _____ TEL _____ () _____ E-mail _____
○を付けてください。(会社員、公務員、教員、学生、自営業、その他) office worker official teacher student self-employed the others	

*身分を証明できる資料(運転免許証、学生証、保険証、その他)をご提示願います。
Please show material that can identify it.

学生又は団体の証明証で身分を証明される場合は以下の項目もご記入願います。

Please fill in the following items when it is identified by the proof certificate of the student or the group.

学校名または団体名 () (いわて5大学関係: 岩手県立大、岩手医科大、盛岡大、富士大、放送大学)
学籍番号または発行番号等 (No.)

*個人情報、図書館業務に限定して使用します。Personal Data is used for only Library Business.

下記のとおり図書館を **利用・利用更新・一日利用** したいので申請します。

なお、利用にあたっては「岩手大学図書館利用規則」を遵守します。

I apply to use The Library for the following reason. I observe Users Rule of Iwate University Library.

記

利 用 期 間	申請日から平成28年 3月31日まで (当年度末限り) One year validity
利 用 目 的 purpose	

I Dカード受領: 平成27年 月 日 署名 _____
Date Signature

平成27年度（後期）岩手大学 公開授業講座 仮受講申請書

仮受講申請書

授業科目名	(No.)	(科目名)
氏名	(ふりがな)	
住所	〒	
連絡先	自宅電話： 携帯電話： FAX番号： E-mail：	

平成27年度（後期）岩手大学 公開授業講座仮受講証

下記の者は、公開授業講座の仮受講生であることを認める。

授業科目名

氏名

岩手大学地域連携推進機構

仮受講申請書

授業科目名	(No.)	(科目名)
氏名	(ふりがな)	
住所	〒	
連絡先	自宅電話： 携帯電話： FAX番号： E-mail：	

平成27年度（後期）岩手大学 公開授業講座仮受講証

下記の者は、公開授業講座の仮受講生であることを認める。

授業科目名

氏名

岩手大学地域連携推進機構

仮受講申請書

授業科目名	(No.)	(科目名)
氏名	(ふりがな)	
住所	〒	
連絡先	自宅電話： 携帯電話： FAX番号： E-mail：	

平成27年度（後期）岩手大学 公開授業講座仮受講証

下記の者は、公開授業講座の仮受講生であることを認める。

授業科目名

氏名

岩手大学地域連携推進機構

（個人情報、公開授業講座業務に限定して使用します。必要な場合はこの申請書をコピーしてお使いください）
「仮受講証」の方にも授業科目名・氏名を記入してください。
地域連携推進機構に「仮受講申請書」の部分提出後、「仮受講証」をご利用ください。

平成27年度(後期)岩手大学 公開授業講座 受講申込書

科目 No.		授 業 科目名	
氏 名	<small>(ふりがな)</small>		男・女 (歳)
住 所	〒		
連絡先	自宅電話： 携帯電話： FAX番号： E-mail：		
職 業	1. 会社員 2. 公務員 3. 教員 4. 自営業 5. 学生 6. 主婦 7. 無職 8. その他 ()		

平成27年度(後期)岩手大学 公開授業講座 受講申込書

科目 No.		授 業 科目名	
氏 名	<small>(ふりがな)</small>		男・女 (歳)
住 所	〒		
連絡先	自宅電話： 携帯電話： FAX番号： E-mail：		
職 業	1. 会社員 2. 公務員 3. 教員 4. 自営業 5. 学生 6. 主婦 7. 無職 8. その他 ()		

平成27年度(後期)岩手大学 公開授業講座 受講申込書

科目 No.		授 業 科目名	
氏 名	<small>(ふりがな)</small>		男・女 (歳)
住 所	〒		
連絡先	自宅電話： 携帯電話： FAX番号： E-mail：		
職 業	1. 会社員 2. 公務員 3. 教員 4. 自営業 5. 学生 6. 主婦 7. 無職 8. その他 ()		

※個人情報、公開授業講座業務に限定して使用します。必要な場合はこの申請書をコピーしてお使いください。

※複数の科目をお申し込みの場合、ご連絡先の記入は一科目分で結構です。(お名前と科目名は全てにご記入ください)